

松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画（案）

令和 4 年度～令和 13 年度

（2022 年度～2031 年度）

目次

第1章 リニューアル基本構想・基本計画の背景

- 1 松戸市立博物館設置の目的・基本的性格
- 2 松戸市の歴史的・文化的特徴
- 3 松戸市立博物館の特徴
- 4 これまでの実績と成果

第2章 リニューアル基本構想・基本計画にあたって

- 1 計画策定の経緯・意義
- 2 計画策定の体制
- 3 上位計画・計画期間

第3章 リニューアル基本構想(使命と基本目標)

- 1 使命
- 2 基本目標

第4章 5つの基本目標の方向性と取り組み

- 1 基本目標1 広域的な文化交流拠点の形成
- 2 基本目標2 松戸ブランドの価値創出
- 3 基本目標3 新しいファン層の獲得
- 4 基本目標4 施設の長寿命化
- 5 基本目標5 新たな展示空間の創設

第5章 評価

第 1 章 リニューアル基本構想・基本計画の背景

1 松戸市立博物館設置の目的・基本的性格

① 設置の目的

平成4年9月24日制定の「松戸市立博物館条例」第2条に、「本市は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。」と明記されており、当館はこの規定にもとづいて設置されました。

松戸市は、長期構想を策定し、21世紀を展望した都市像として、「自然との調和」「人間尊重」を基調とし、市民連帯の下に心のふれあう豊かな都市を目指しています。市民が国際的視野に立ち、将来を展望しつつ、自らのまちに限りない愛着と誇りをもち、自らの歴史をふまえ、文化的な生活都市へ転換を図るためには、市民の活力と行政の整備条件が一体となった創造的活動が必要です。

文化活動は、市民の一人ひとりが個性を伸ばし、創造性を培い、自己の向上を図る自発的な行為である。本市においても、その活動は年々活発に行われ、市民はより充実した活動の機会と場を強く求めています。

これらの機運に応えるとともに、豊かな情操と郷土愛を培う文化を未来社会へ継承する使命を果たすため、造形美術部門、郷土資料部門、文書部門の機能を有する各文化施設が必要です。

なお、これら各施設の設置にあたっては、相互の有機的な連携を保ちながら、特色ある主体的活動を行い得るよう配慮しなければなりません。

② 基本的性格

市民生活に密着した親しみやすい
特色ある郷土資料館とする。

郷土の過去の姿を正しく理解し、
未来を展望するために、松戸市域
を中心とする原始・古代から現代に
至るまでの歴史を概観することが
できる場とする。

人類史的視野にたって、松戸を
中心とする地域の風土の中で
生きた先人の生活と文化を
明らかにしてゆく。

縄文時代を中心とする考古資料を
もとに、原始社会の生活文化が
どのように展開したかを
明らかにする。

教育普及活動を重視し、
生涯教育の一環として、
市民が気軽に積極的に参加できる
自己学習と交流の場とする。

松戸市に関する考古・歴史・民俗
資料の保存に努める。

収集・保存・展示・教育普及活動等
をよりよいものにするため、
調査・研究活動を重視する。

2 松戸市の歴史的・文化的特徴

土器・石器が重要文化財に指定された幸田遺跡をはじめ、貝の花、子和清水など全国的にも著名な 140 か所を超える縄文時代の遺跡、戦国時代に下総国西部の政治拠点となった巨大な小金城とそれに次ぐ規模の根木内城の 2 城が公園として保存されていること、江戸時代に将軍隣席で 4 度行われた大規模な小金原御鹿狩、現代日本人の住居環境の原型となった常盤平団地、上本郷・大橋・和名ヶ谷で着実に継承されている三匹獅子舞など、市民の誇りと言い得る歴史・文化に恵まれています。

幸田遺跡 土器・石器が重要文化財	小金城と根木内城	小金原御鹿狩
常盤平団地	上本郷・大橋・和名ヶ谷 三匹獅子舞	

3 松戸市立博物館の特徴

(1) 立地

- 集客力の高い広大な公園、森のホール 21、県立西部図書館と隣接する博物館として文化的環境に恵まれ、大型商業施設の設置で近隣との新たなルートも開拓されています。
- 東京に近く、比較的交通アクセスが良い。市内だけでなく、近隣自治体、全国からも訪れやすい。

(2) 利用者

- 市内外の小学校、デイサービスの利用が定着をみている。近年は、若い世代や家族連れが増えています。
- 市内 6 割、市外 4 割以上の利用者構成となっています。

(3) 館蔵資料

- 縄文時代では千葉県西部唯一の重要文化財・幸田遺跡出土資料をはじめとする膨大な考古遺物
 - 戦国時代の小金城主高城氏関連古文書
 - 2,000 余点を数える全国各地の郷土玩具コレクション
 - 徳川将軍の小金原御鹿狩にまつわる絵画類
 - 虚無僧寺一月寺の一括資料
 - 住環境改善の国家プロジェクトの端緒・常盤平団地にかかわる生活資料
 - 300 点を超えるシルクロード・ガンダーラ関係資料
- など、松戸市ならではの資料に恵まれています。

(4) 施設

- 市立博物館としては、県内随一の規模と仕様の建物で、展示室の規模、スタジオ、燻蒸の完備など県西部を代表する施設です。

(5) 専門性

- 近隣同系列館園では最多の7人の学芸員が考古・歴史・民俗の各分野と配され、レベルの高い学術研究が行われています。

(6) 外部連携

- 活発に活動する博物館友の会との協働が盛んです。
- 小学校の社会科と連動した展示の開催と積極的な見学勧誘を行っています。

(7) 経営

- 直営施設として相当の予算を確保され、安定的に運営されています。

4 実績と成果

(1)企画展・館蔵資料展

(2)講座・講演会

(3)図録・紀要

(4)千駄堀地区3館連携文化交流拠点事業

(5) 学校との連携

第2章 リニューアル基本構想・基本計画にあたって

1 計画策定の経緯・意義

経緯	
平成5年4月29日	開館
平成24年6月	松戸市立博物館協議会からの意見を受け、博物館内リニューアル研究会発足
平成27年7月	今後の主要なターゲットを子育て世代・家族連れに設定し研究を継続
平成29年6月	松戸市立博物館協議会にて、こども向け展示構想について議論
平成29年10月	松戸市立博物館協議会に博物館リニューアル展示構想について諮問
平成31年3月	松戸市立博物館協議会から「(仮称)こども歴史博物館」について答申を受ける
令和元年7月	企画展「こどもミュージアム」の成果・検証
令和元年8月	松戸市立博物館協議会にて、博物館リニューアル基本構想・基本計画について協議を開始

国・世界の動向

わが国の方針は、「地方自治法」改正に伴う一部公立博物館への指定管理者制度の導入(平成 15 年度)、「教育基本法」改正(同 18 年度)、「社会教育法」・「博物館法」の改正(同 20 年度)、そして「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」の告示(同 23 年度)と、21 世紀に入って博物館関連法規は急速に変化しました。趨勢としては、博物館の諸事業の評価と運営の在り方が問われるとともに、職員の専門性の向上が求められています。

また、「地域の文化を発信する核」「新たな文化創出につながる拠点」「社会教育の振興」「文化振興」「文化クラスター」としての役割を担うこと、更に「文化観光拠点施設」として文化芸術基本法が制定されるなど、博物館の新たな可能性について期待が持たれているところです。

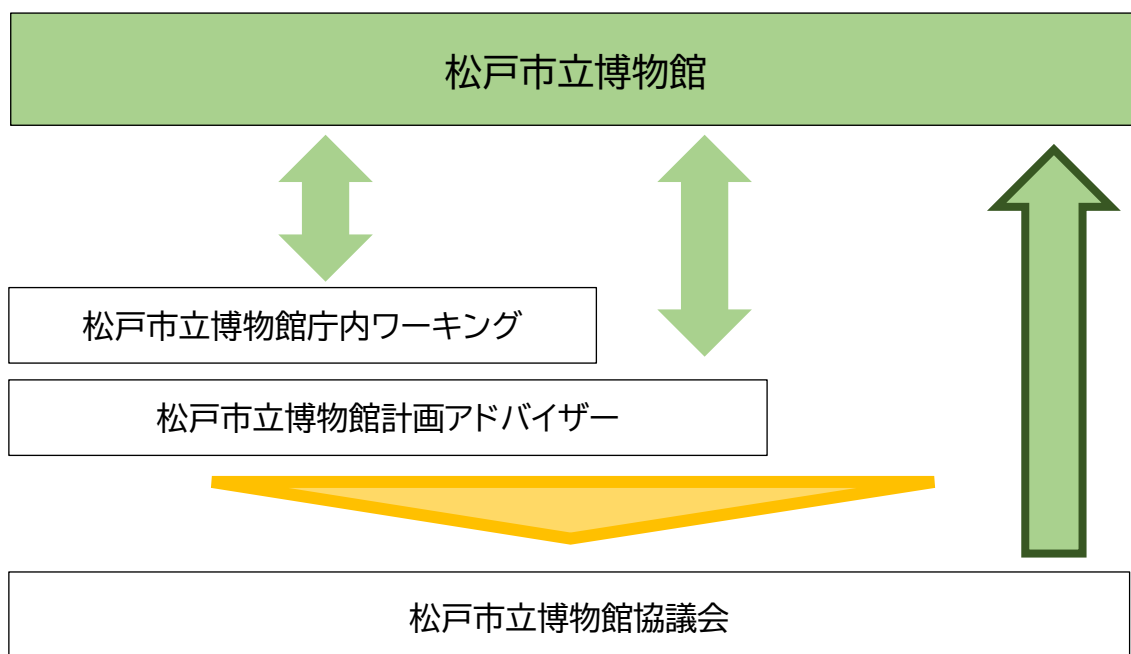
世界の方針としては、令和元年(2019 年)に開催された ICOM(国際博物館会議)京都大会では、「Museums as Cultural Hubs(文化をつなぐミュージアム)」のテーマのもと、様々な文化の繋ぎ役として「博物館」の可能性が提示され、世界規模で博物館の役割や存在意義が問い直されています。

松戸市の方針

松戸市立博物館は、これまでの機能・役割を見直し、より高度な資料の保存と活用を通して、多くの分野、地域、人と人、過去から未来への繋ぎ役として新たな文化施設へと進化することを目的に、「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画」を策定します。

2 計画策定の体制

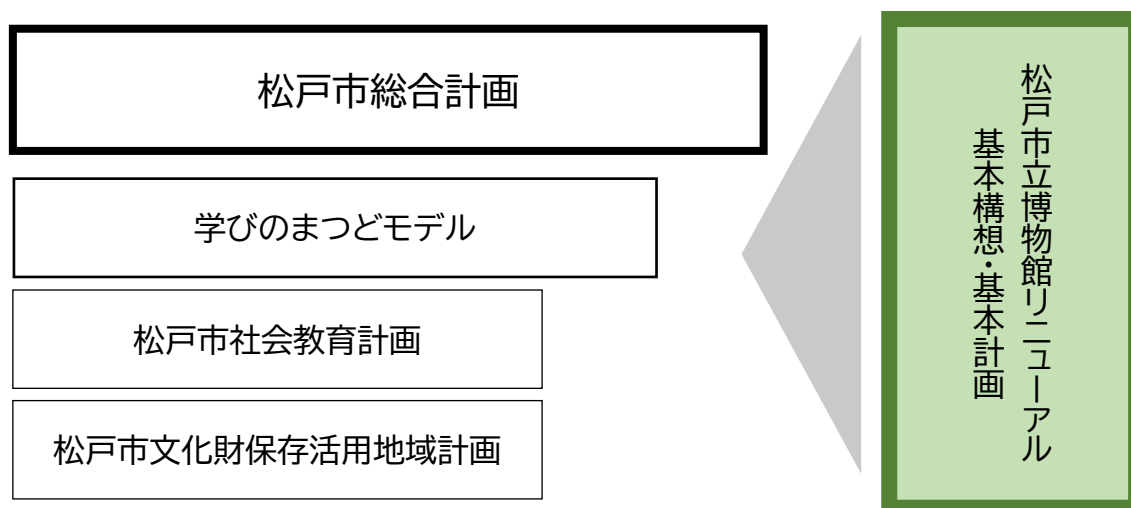
基本計画庁内ワーキング、計画アドバイザーに意見をいただきながら、松戸市立博物館協議会に議題として提示し、計画策定を進めました。



3 上位計画と計画期間

上位計画・関連計画に即し、連携します。

本計画の期間は、令和4年4月1日から令和13年3月31日までです。



第3章 基本構想（使命と基本目標）

1 使命／ミッション

松戸市立博物館は、3つの社会的な役割を果たすために活動します。

使命／ミッション

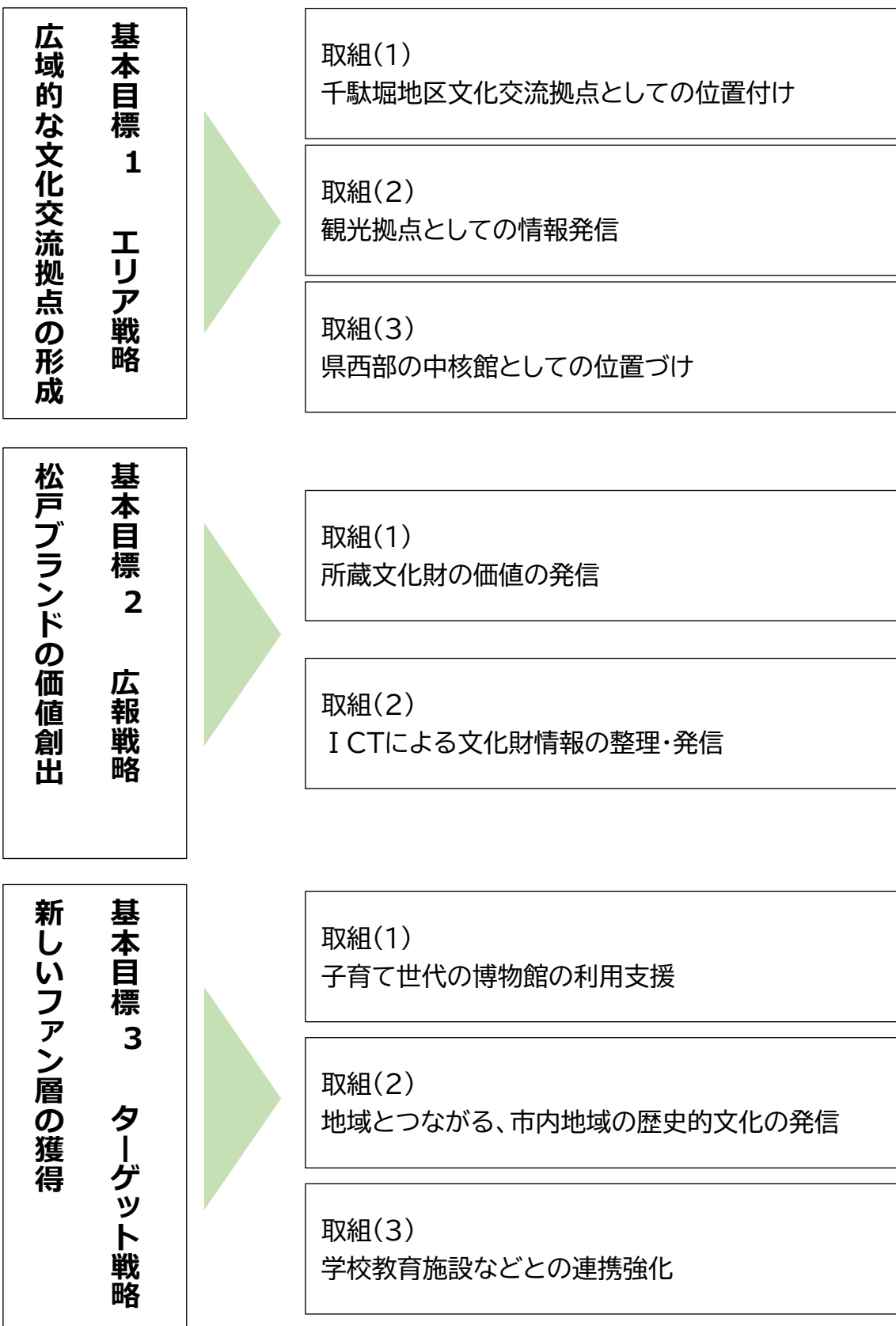
- ◎ 松戸市立博物館は、松戸の3万年の歴史と文化を研究し、その「知」の集積をもとに未来を展望するために誰もが活用できる歴史博物館をめざします。
- ◎ 多くの市民が松戸の歴史と文化を楽しみながら価値を発見し、「ふるさと松戸」に対する愛着と誇りを育むことができる地域博物館をめざします。
- ◎ 未来を担う子どもたちを育み、多くの人々をつなぎ、協力を推進し「ひとづくり」に貢献できる文化交流の場をめざします。

2 基本目標

3つの使命を達成するために5つの基本目標を掲げ、取り組みます。

<p>基本目標-1 エリア戦略 広域的な文化交流拠点の形成</p>
<p>松戸市立博物館は、千駄堀エリアの文化環境や自然環境を生かし、 周辺施設との連携を強化し、市民のための文化交流拠点をつくりあげます。</p>
<p>基本目標-2 広報戦略 松戸ブランドの価値創出</p>
<p>これまで蓄積してきた研究成果や貴重な文化財など松戸市立博物館の価値 を強烈にアピールし、博物館の認知度アップをめざします。</p>
<p>基本目標-3 ターゲット戦略 新しいファン層の獲得</p>
<p>松戸市立博物館は、家族で楽しめ集える博物館をめざし、 新規利用者の開拓に努め、共に博物館を盛り上げていく仲間づくりを推し 進めます。</p>
<p>基本目標-4 施設戦略 施設の長寿命化</p>
<p>多様な利用者に対応できるよう施設の充実を図るとともに、今後も持続可 能な博物館活動を展開できるよう施設・設備の長寿命化を図ります。</p>
<p>基本目標-5 展示戦略 新たな展示空間の創設</p>
<p>子どもも大人も楽しく、松戸の歴史と文化を学ぶことができる 「こども歴史体験ゾーン」を整備します。 また、常設展示室全体の充実も図ります。</p>

第4章 5つの基本目標の方向性と取り組み



施設の長寿命化

基本目標 4 施設戦略

取組(1)
インクルーシブデザインの導入

取組(2)
施設の長寿命化計画

取組(3)
アクセスの改善

新たな展示空間の創設

基本目標 5 展示戦略

取組(1)
こども歴史体験ゾーンの整備

取組(2)
新しい発見や学びのための可変的な展示

取組(3)
ニーズに対応した快適な展示空間

基本目標 1 広域的な文化交流拠点の形成

取組(1) 千駄堀地区文化交流拠点としての位置付け

21世紀の森と広場、森のホール21と連携し、文化交流拠点の一角として恵まれた自然環境の中で「音楽・芸術」「自然」「歴史・文化」を味わえるコンテンツやイベントを企画、良質な文化を提供し、集客力アップを目指します。

〈目指す姿〉

① 1日中楽しめる空間創出

誰もがみんな一日中楽しみながら、自然と歴史、文化、音楽・芸術を満喫して過ごせるような各施設を連関させる体制の整備を強化し、恒常的な施設の相互利用の活性化と認知度の向上を目指します。

② 市内外からの集客

多岐に亘る連携イベントを企画し、市内・外からの集客と新規利用者の獲得を目指します。

取組(2) 観光拠点としての情報発信

戸定歴史館など市内文化施設などと連携を深め、文化財を通じて松戸の歴史を知る・探る「観光ルート」や「歴史の道」などの情報を発信します。

〈目指す姿〉

① 文化財へのアクセシビリティ強化

博物館の展示のみで完結するのではなく、常設展示や各種展覧会の見学をきっかけとし、そこから来館者がさらに歴史・文化への興味・関心を高め、市内の史跡等を散策したりできるよう、文化財へのアクセシビリティの強化を図ります。

② まつどの歴史・文化の観光ルート

観光スポットとして「観光ルート」「歴史の道」の散策を推奨し、歴史・文化を体感する楽しさを多角的な視点から市内外に発信します。同時に、郷土の歴史・文化に魅力を感じ、誇りが持てるように市全体のなかで連携を強化します。

③ 松戸市戸定歴史館との連携

連携展示や市内文化施設各種イベント等を多く企画し、歴史・文化を通してつなげる街の魅力発信に努めます。

取組(3) 県西部の中核館としての位置づけ

市外の博物館などとも連携し、県西部の中核館として歴史・文化の更なる普及・発展を目指します。

〈目指す姿〉

① 歴史・文化の拠点

東京に隣接する好立地に加え、周辺博物館と比較しても、充実した規模・内容を誇る当館の長所を活かし、歴史・文化に関する情報発信の拠点としての事業を展開します。

② つなぐ博物館

人類史的な視野による調査研究を行ない、その成果を基礎とした企画展等の展覧会、普及活動を展開することにより、松戸を広い視野からとらえなおし、各地域をつなぐとともに、さらには人類の過去・現在・未来をも結びつける視点とその意義を発信します。

基本目標 2 松戸ブランドの価値創出

取組(1) 所蔵文化財の価値の発信

県西部唯一の縄文重要文化財「幸田貝塚」の土器群をはじめ、数十万点にも及ぶ市の貴重な所蔵文化財の調査研究を深め、魅力を発信することで、「松戸ブランド」として誇りと親しみがもてる多角的な活動を展開します。また前提として必要な資料の調査・研究を拡充します。

〈目指す姿〉

- ① 展示やイベントにより興味を持って観覧・参加できるよう、広報から展示・解説手法に至るまで、全般を逐次総括・反省しながら拡充・改変することで発信力を強化します。
- ② 博物館活動の根幹である資料の調査・研究の在り方について、短期的業務と中長期的業務を弁別・整理して館内で情報共有する等の見直しを行い、効率化と集中化を図ります。
- ③ 資料の保存と活用のバランスを正確に認識しながら、調査・展示・燻蒸・貸し出し等、一連の事業を実施します。

取組(2) I C Tによる文化財情報の整理・発信

「松戸3万年の歴史」の見どころを、最新の研究成果をI C T（ホームページ・SNS）活用をはじめ、様々な方法で発信していきます。

〈目指す姿〉

- ① 展示解説動画、SNSの発信、オンライン蔵書検索、デジタルミュージアムの開設、常設展示室360°VRコンテンツなどの事業を行い、ネットワークを活用した松戸市立博物館の情報発信を行っています。
- ② アイテムや表現方法に工夫を加えながら、更なる利便性とわかりやすさ、楽しさの充実を図り、ネットワーク環境を活用した取り組みを行います。

基本目標 3 新しいファン層の獲得

取組(1) 子育て世代の博物館の利用支援

子育て世代の博物館デビューや家族による利用を積極的に支援し、憩の場として楽しく利用できる環境を提供します。

〈目指す姿〉

- ① 家族で気軽に利用できるプログラムやイベントを常時開催します。
- ② 常設展示の子ども向けワークシートで、歴史を学習していない子供にも、
松戸の歴史を楽しみながら、学べる機会を提供します。

取組(2) 地域とつながる、市内地域の歴史的文化の発信

縄文遺跡、御鹿狩、常盤平団地、小金城・根木内城、獅子舞をはじめ、市内各地域の歴史文化を通じて松戸市立博物館友の会などの諸団体と繋がることで「交流」を形成し、更に郷土への理解と愛着が深まる仕組みを作ります。

〈目指す姿〉

- ① 市内のさまざまな団体と連携して共催事業等を実施するだけでなく、活動を支援できるよう助言・協力します。
- ② 地域活動団体や町会・自治会の学習活動の取り組みをつなぎ博物館を核とした連携が深まる仕組みを作ります。

取組(3) 学校教育施設などとの連携強化

学校（小・中・高校・大学・専門学校等）との連携を強化し、教員・生徒へのアウトリーチ活動を展開します。また、NPO や企業などと連携し、家族で楽しいワークショップ、グッズなどを企画開発し、歴史・文化の魅力を発信します。

〈目指す姿〉

- ① 松戸市内各地域の特徴ある歴史や文化を児童が学習できるよう、小中学校と連携したカリキュラム作りを進めます。また、出前授業などのアウトリーチ活動へ活かします。
- ② 聖徳大学児童学部との連携を進め、それぞれの学習課題を習得し、館内外の事業に反映させます。
- ③ 小中学校だけでなく、高校・大学との連携によりこれまで進めてきた博學練連携プログラムの強化をはかります。

基本目標 4 施設の長寿命化

取組(1) インクルーシブデザインの導入

外国人、障害者、高齢者など、誰もが安心・安全で、平等に利用できるインクルーシブデザインの施設を目指します。

〈目指す姿〉

性・国籍・年齢・障害の有無などに係わらず、誰もがストレスなく立ち寄り、展示を観覧し、事業に参加できる空間構成を目指します。

取組(2) 施設の長寿命化計画

震災・火災・水害等の脅威にも耐えられるよう、文化財の展示・所蔵環境を見直します。さらに文化財を未来に受け継ぐための施設整備・改修計画を作成し、長寿命化に対応します。

〈目指す姿〉

① 老朽化施設改修

博物館は建築後 28 年以上経過し、建物の老朽化が進行しており、安全面、機能面で様々な不具合が発生しており、今後、計画的な建築、機械・電気設備の修繕工事、また地震、水害などの災害時に備えた建物の機能強化が求められます。

② 施設長寿命化

利用者への安全で安心した快適な施設環境の提供、また国の重要文化財など貴重な歴史資料を保管する収蔵庫の環境整備など、適切な施設の維持保全に向けて、優先順位の検討を行い、長寿命化、老朽化対策を計画的かつ効率的に進めていきます。

取組(3) アクセスの改善

来館者のアクセス改善として、駐車場環境の整備を目指します。

〈目指す姿〉

- ① 利用者の利便性向上のため、21世紀の森と広場駐車場の有効活用など駐車場環境の整備を図っていきます。
- ② 主要駅（八柱駅、新八柱駅、新松戸駅）から博物館までの適切な誘導の看板や案内板の充実を図ります。

基本目標 5 新たな展示空間の創設

取組(1) こども歴史体験ゾーンの整備

見て触って楽しみながら松戸の歴史・文化の深さを知ることができる「こども歴史体験ゾーン」を整備し、こども、家族で日常的に利用できる学習の場を提供します。

〈目指す姿〉

① こども歴史体験ゾーンの5つの柱

(ア)博物館と最初に出会う場所

(イ)家族で一緒に楽しめる体験プログラムの提案

(ウ)こどもたちの自主性を重視する歴史体験

(エ)公園にある博物館の特性を活かした活動

(オ)人々の交流が生まれる広場

(ア) 博物館と最初に出会う場所

- ・ だれでも気軽に入ることができ、博物館への興味を引き、その楽しさが伝わる展示室を1階に整備します。

(イ) 家族で一緒に楽しめる体験プログラムを提案

- ・ 家族が、「わがまち」である松戸の歴史や文化と一緒に楽しく学べる体験プログラムを開発し、展示します。

(ウ) こどもたちの自主性を重視する歴史体験

- ・ こどもたちが松戸の歴史や文化に自ら興味を持ち、遊びの要素を含んだ体験を通して学べる展示室を目指します。
- ・ こどもたちの知る喜びを大切に、新たな発見から自発的（主体的）に学ぶ意欲や力を育てます。

(エ) 公園にある博物館の特性を活かした活動

- ・ 公園のなかの博物館として、21世紀の森と広場の自然環境や千駄堀地区の生活環境を活かした活動を行います。

(オ) 人々の交流が生まれる広場

- ・ 博物館友の会に加え、歴史サークル、こども関連の団体、地元の農家などの多くの市民の協力を得て、みんなが集える広場を目指します。
- ・ 多くの市民の交流拠点としてワークショップ等の様々な活動を行い、こども

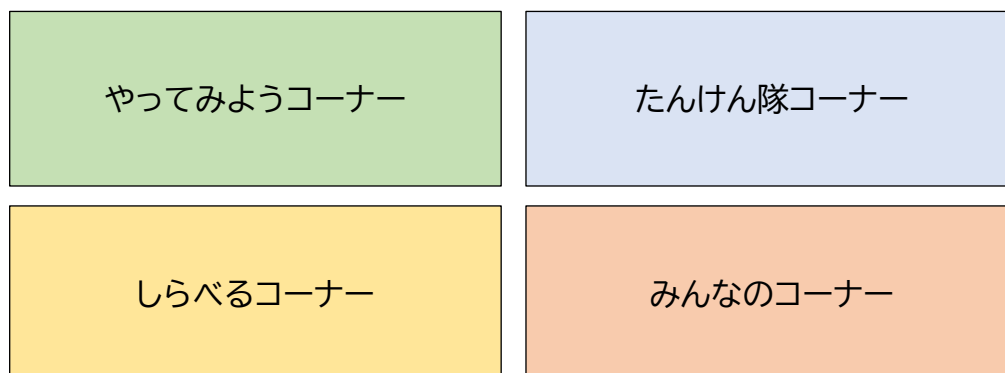
たちの豊かな学びの機会を創出するとともに、博物館を活性化させます。

② 展示構成

(ア) 4つのコーナー

「こども歴史体験ゾーン」は、「やってみようコーナー」「たんけん隊コーナー」「しらべるコーナー」「みんなのコーナー」の4つのコーナーで構成し、各コーナーには松戸の歴史や文化にアプローチする多彩なプログラムを用意して、常に新たな歴史体験ができます。

この4つのコーナーは連関性を持ち、こどもたちが自らの興味に応じて自発的で主体的な学びを深められるプログラムの開発を目指します。



- ①「やってみようコーナー」での体験や「たんけん隊コーナー」でのクイズ等を通して、自分が興味を持ったテーマ(資料)を発見する。
- ②「しらべるコーナー」で写真や地図などを使い調査研究することで、自分独自の答えや成果を得る。
- ③「みんなのコーナー」で調査研究の成果を発表する。

(イ) わかりやすいプログラムの開発

松戸の歴史や文化を中心に据えたプログラムの開発を目指します。松戸の歴史を表した常設展示の内容を、こどもたちに分かりやすく伝え、理解を深める役割を持ちます。さらに企画展示や体験プログラムとも連携し、博物館全体が活性化するように努めます。

(ウ) リピーターの確保

来館者がお気に入りの場所として何度も来たくなるような、魅力的な体験プログラムの開発や更新、展示ガイドやワークシートなどの仕掛けづくりに取り組みます。

(エ) フィールドワーク体験プログラム

「たんけん隊コーナー」のプログラムとして、歴史的環境（神社や石仏など）や自然環境への対応（千駄堀の里山の生活や江戸川沿いの下谷地区の生活環境（水害対策））等にアプローチするための、フィールドワークによる体験プログラムを構想します。

(オ) 学校との連携プログラム

小学校の社会科見学をはじめ、団体利用に対応する体験プログラムを学校関係者などと共同で開発します。

④展示運営

取組(2) 新しい発見や学びのための可変的な展示

可変的な展示空間を創設し、来るたびに新しい発見や学びを深めることができる展示を提供します。

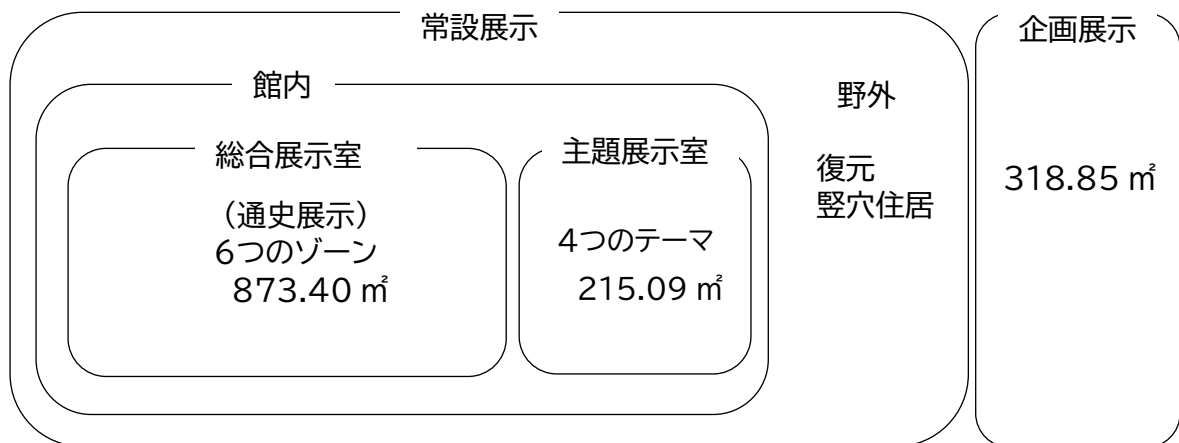
〈目指す姿〉

- ① 常設展示を見直し、現在の主題展示室を改変し、新たに可変性をもつ展示空間を創設します。新しく収集した資料の即時的な公開、研究成果をもとにした新しい情報の発信、特定の展覧会テーマに合わせた収集資料等の紹介などの展示を展開します。
- ② 総合展示室内にも可変性をもつ展示ケース等を増設し、通史展示における各時代の新たな研究成果の発信や、関連する収集資料の公開し、また、定期的な入れ替えなど行ないます。

取組(3) ニーズに対応した快適な展示空間

わかりやすい解説から深い学びまでそれぞれの利用者に対応でき、誰もが快適に過ごせる常設展示へ整備します。

展示室の現状



〈目指す姿〉

① 常設展示全体

- ・ 展示室の照明を明るくし、展示資料や模型をよく観察できるようにします。
- ・ 車いす利用者が見やすいように、展示台の形状を工夫します。
- ・ 展示資料や模型について、詳しい情報・解説やイラスト・写真等を用いたわかりやすい説明を付け加えます。展示室内で QR コード等を用いた情報

発信を行ない、見学者の興味・関心に応じて学びを深められるような工夫を凝らします。

② 総合展示・各ゾーンに関すること

I. 【人類の誕生／狩りと採集のムラ】〔旧石器・縄文時代〕

- ・ SDG's を意識し、従来にも増して自然と人間との関わりを重視し、環境変動に適応するなかで、人々の生活がどのように変化してきたか、出土資料とともにわかりやすく展示します。
- ・ 縄文海進期の生活実態が分かる好例として、幸田貝塚出土品を展示します。
- ・ 現在のジオラマ「縄文の森」は年代観、内容を見直した上で存続させ、出土資料と有機的に関連付けた説明の装置として活用します。
- ・ なぜ当時の環境や生活がわかるのか、その根拠となる分析結果や研究成果をわかりやすく明示し、見学者の理解を深めます。

II. 【稲作社会の誕生／下総国のはじまり】〔弥生時代・古墳時代・古代〕

- ・ 新たな調査資料の増加、研究成果の蓄積を受け、展示内容や解説の不足箇所について、可変性をもつケースを設置・利用し、収蔵資料及び調査研究の成果を反映させた展示を展開します。日本列島で古墳が築かれ始めた頃、松戸ではどのような墓が築かれていたのか、市内検出の方形周溝墓関連資料や、行人台遺跡から出土した渡来人との関わりがうかがえる資料、古墳から出土した埴輪などを随時、入れ替えながら展示します。
- ・ 「河原塚1号墳の埋葬施設復元模型」に対応させて、新たに人骨検出状況の写真を展示し、実際に検出された被葬者と副葬品の状況と比較しながら模型が見学でき、見学者の興味・関心を惹くよう改善します。
- ・ 展示中の小野遺跡から出土した銚帯金具（役人が身につけたとされるベルトの飾り）は飾り金具のみの展示であるため、新たにベルト全体が分かる復元模型を製作・展示し、見学者が理解しやすいようにします。
- ・ 各展示資料が実際に、どのように使われたかがわかるようなイラスト、発見された遺跡の位置や遺跡の発掘調査写真などの追加情報をオンデマンド（QRコードなど）で閲覧できるようにします。

III. 【武士と民衆】〔中世〕

(ア) 根木内城跡の展示を新設

開館後に発掘調査が行われ、出土資料に加えて城の規模や役割についての新知見が加わりました。また歴史公園としては県内指折りの良好な保存状態にある根木内城の展示を追加することで、市域の戦国時代理解の増進を図り、同時に身近な文化財への意識を高めます。

(イ) 高城氏関連古文書コーナーの増設

近年購入し、市指定文化財にも指定された西原文書、さらに高城氏直系御子孫からの古文書も寄贈されたことで、博物館の中世資料は俄かに増大しました。これらの積極的な活用と保存の両立を図るため、良質なレプリカを作成して常時展示できるようにします。

IV. 【町場と村】（近世）

（ア） 近世の村

松戸市域の50をこえる村々の江戸時代の名前が現在の町名のもとになったこと、陸上・河川交通を通じて、松戸が100万人都市の江戸と密接にむすびついていたことなど、現代と江戸時代の連続性を重視した展示内容とすることで歴史を身近に感じてもらえるようにします。

（イ） 小金牧と御鹿狩に関する展示

小金原御鹿狩は、いまの松戸市域にあった小金牧（中野牧）の周辺の野原で行われました。今では完全に失われた牧の景観や、そこで育成されていた日本在来馬の展示を盛り込み、4回行われた徳川将軍の御鹿狩の概要を振り返り、様々な御鹿狩関連資料を展示します。

V. 【都市へのあゆみ】

(ア) 下谷・谷津・台

- ・ 照明を明るくし、模型をよく観察できるようにします。
- ・ 現状の「下谷・谷津・台」の配置について、「常盤平団地の誕生」の動線と整合性を持たせるとともに、3つの模型が比較できるように変更します。
- ・ 「下谷・谷津・台」の各集落の生活を表す写真、イラストなどの情報も発信します。
- ・ 可変性を持つ展示室で、各集落の生活資料を実物展示できるようにします。

(イ) 常盤平団地

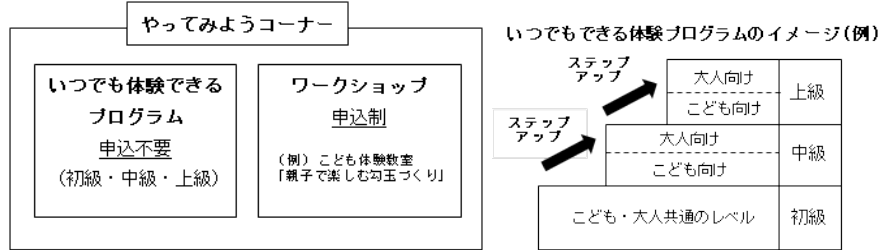
- ・ 新たに60年に及ぶ生活の営み全体を反映した展示とします。
- ・ 電動車椅子にも対応できるリフター（昇降機）に改良します。

こども歴史体験ゾーン

★やってみようコーナー

こども歴史体験ゾーンの導入として、松戸の歴史や文化に気軽に触れ、興味を持つきっかけをつくるコーナー

- ・松戸の歴史や文化などに関わるさまざまな体験プログラムを開発し、実際に資料（レプリカ・普及用資料）に触れたり、使ってみることで、歴史の楽しさを体感する。
- ・体験プログラムは、気軽にできるものから、道具を使いこなすまで練習を必要とするものまであり、くりかえし訪れて楽しむことができる。



「やってみようコーナー」で興味をもった事について「しらべるコーナー」を活用し、さらに学びを深める。

★たんけん隊コーナー

博物館の展示室や松戸の歴史や文化を楽しく探検するコーナー

例①「展示室たんけん隊」はこどもたちが展示室を楽しくわかりやすく見るための“しかけ”を開発・実施。博物館へのはじめの一步（導入）をサポートする。

例②「フィールドたんけん隊」は博物館だけでなく、探検の場所を松戸の歴史フィールドにまで広げ、こどもたちの調査研究活動のサポートをする。（例：千駄堀たんけん隊）

上記以外にも、こども歴史体験ゾーンの活動を通して様々な「たんけん隊」を企画し、こどもたちの探究心を育てる。

たんけん隊の中から興味をもったテーマを「ふりかえり」、「しらべるコーナー」を活用してさらに学びを深める。

この4つのコーナーは有機的に結ばれている

★みんなのコーナー

様々な市民の協力を得てこどもたちの豊かな学びの機会を創出し、みんなが集える広場。

- ・こどもたちや多くの市民の交流拠点として、ワークショップ等の様々な活動を行う。
- ・友の会や市民歴史サークル等の活動紹介。
- ・博物館アワード等、こどもたちの学習成果の展示や発表の場。

★しらべるコーナー

「やってみようコーナー」や「たんけん隊コーナー」で興味を持った松戸の歴史や文化をより深く知るためのコーナー

- ・松戸の歴史を調査するための情報検索ツールとして、写真や地図などを用意し、調査したデータを元に学び（研究）を深めるフィールドワークの基地となる。

常設展示

- ・総合展示
- ・主題展示

野外展示

- ・竪穴住居
- ・水田

企画展示

千駄堀地区

21世紀の森と広場

松戸の歴史や文化

チャレンジ

ふりかえり

チャレンジ

ふりかえり

チャレンジ

学びをふかめる